

2016年3月期第3四半期決算 および通期業績予想の修正について



2016年1月27日
メタウォーター株式会社

- I 2016年3月期第3四半期ハイライト
- II 2016年3月期通期業績予想修正
- III 2016年3月期第3四半期決算概要

<セグメント情報>

□プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業)

当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。

□サービスソリューション事業(略語:SS事業)

当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、維持管理(保守・点検)、運転管理などの各種サービスを主たる業務としています。

<略語>

EPC Engineering, Procurement and Construction: 設計・建設

O&M Operation and Maintenance: 運転・維持管理

PPP Public-Private Partnership: 官民連携

PFI Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法

DBO Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法

- I 2016年3月期第3四半期ハイライト
- II 2016年3月期通期業績予想修正
- III 2016年3月期第3四半期決算概要

2016年3月期第3四半期ハイライト

【計画比】1～2Qは、受注高・売上高・利益とも概ね予想通り
 3Q売上高・利益は、1～2Qに引き続き予想通り
 3Q受注高は、4Qへのずれ込みが生じ、予想に届かず

【前期比】3Q累計売上高・利益は、案件構成の違いにより、減収減益
 3Q累計受注高は、4Qへのずれ込みにより、前期実績に届かず

(単位:億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益*
'16/3期3Q累計実績	861 前期比: ▲20 ▲2.3%	374 前期比: ▲43 ▲10.4%	-62 前期比: ▲30	-62 前期比: ▲31	-44 前期比: ▲24
'15/3期3Q累計実績	881	418	-33	-31	-20

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

PE事業 受注高1億円以上の工事が26件完了

- * 東京都水道局 玉川浄水場受変電設備改良工事(3Q)
- * 鳥取市環境下水道部 秋里下水終末処理場汚泥焼却設備工事(3Q)
- * 甲府市上下水道局 甲府市浄化センター汚泥焼却施設増設(電気設備)工事(2Q)
- * 東京都下水道局 新河岸水再生センター汚泥焼却炉脱水設備工事(2Q)
- * 東京都水道局 村山山口貯水池外7か所監視制御設備等整備工事(1Q)
- * 沖縄県企業局 新石川浄水場オゾン処理機械設備工事(1Q) など

SS事業 新規の運転・維持管理を3件開始

- * 川崎市上下水道局 加瀬水処理センター・処理区ポンプ場 運転点検業務(3Q)
- * 大阪府・枚方市上下水道局 中宮浄水場浄水施設運転管理業務等委託契約更新(2Q)
- * 宮城県女川町 水産加工団地排水処理施設整備等事業(維持管理・運営)を開始(1Q)
- * 長崎県・佐世保市水道局 山の田浄水場統合事業(維持管理・運営)を開始(1Q)

など

10億円以上の大型案件を13件受注 PE事業

- * 北海道・桂沢水道企業団 桂沢浄水場更新事業 設計及び建設工事(3Q)
- * 東京都下水道局 南部汚泥処理プラント汚泥焼却炉脱水設備工事(2Q)
- * 三重県 志登茂川浄化センター中央監視制御設備工事(2Q)
- * 京都府綾部市 新第一浄水場機械設備工事(2Q)
- * 北海道釧路市 第三回拡張事業愛国浄水場水処理プラント設備工事(1Q)
など

SS事業

- * 熊本県・荒尾市企業局 荒尾市水道事業等包括委託(3Q)
- * 北九州市上下水道事業運営新会社への参画(3Q)
- * 滋賀県・守山市環境センター運営管理・修繕長期包括業務(3Q)
- * 御殿場市・小山町広域行政組合 ゴミ再資源化施設(リサイクルセンター)整備及び運営事業の契約締結(2Q)
- * 愛媛県四国中央市 中田井浄水場等更新整備・運営事業(1Q)

など

Aqua-Aerobic Systems, Inc. (AAS) 子会社化

AASグループの完全子会社化を完了 '17/3期より当社連結業績に貢献



AQUA-AEROBIC SYSTEMS, INC.
A Metawater Company



会社名	Aqua-Aerobic Systems, Inc. (アクア エアロビック システムズ インク)
所在地	米国イリノイ州
事業概要	上下水道の水処理に関する エンジニアリング事業およびサービス事業
創業	1969年5月
売上高 営業利益	US\$ 68.9 M (約83億円 * 1米ドル:120円換算) US\$ 7.8 M (約9.4億円 * 1米ドル:120円換算) * 2014年12月期
従業員数	125人
企業結合日	2016年1月15日
取得価額	➢ AAS の買収対価の概算額:87百万米ドル (約104億円 ※1米ドル:120円換算)
新経営体制	➢ 当社取締役 福島 一郎が現職を継続したまま AAS の取締役会長に就任 ➢ Robert J. Wimmer は現職の President and CEO を継続

子会社化のねらい



経営リソース提供

当社の経営リソースを背景に、AASは、大型案件、複数案件の獲得が可能に

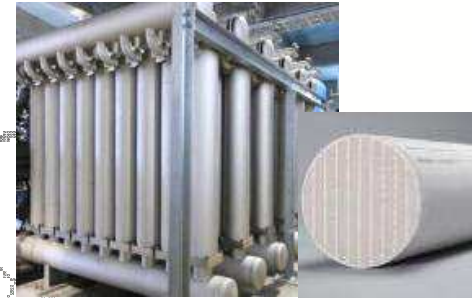
米国事業基盤提供

当社の強みである技術・製品を、AASの事業基盤を通じて展開が可能に

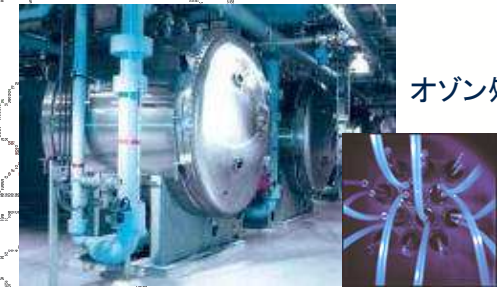
技術・製品開発

両社の技術・ノウハウを融合し、市場ニーズに合った製品・ソリューションの開発が可能に

セラミック膜ろ過システム



オゾン処理システム



多層燃焼流動炉

高速ろ過システム



三次処理向け布ろ過装置 (クロスメディアフィルターシステム)



回分式下水処理装置



膜ろ過装置



曝気装置



攪拌装置



プロセス制御システム



- I 2016年3月期第3四半期ハイライト
- II 2016年3月期通期業績予想修正**
- III 2016年3月期第3四半期決算概要

2016年3月期業績予想の修正

- * 4Qの売上高減少、一部案件の損益悪化を主要因に通期予想を修正
- * 受注高は前期並みとなり、受注残高は増加傾向を持続するため、売上・利益は来期から回復に向かう見込み。

(単位:億円)

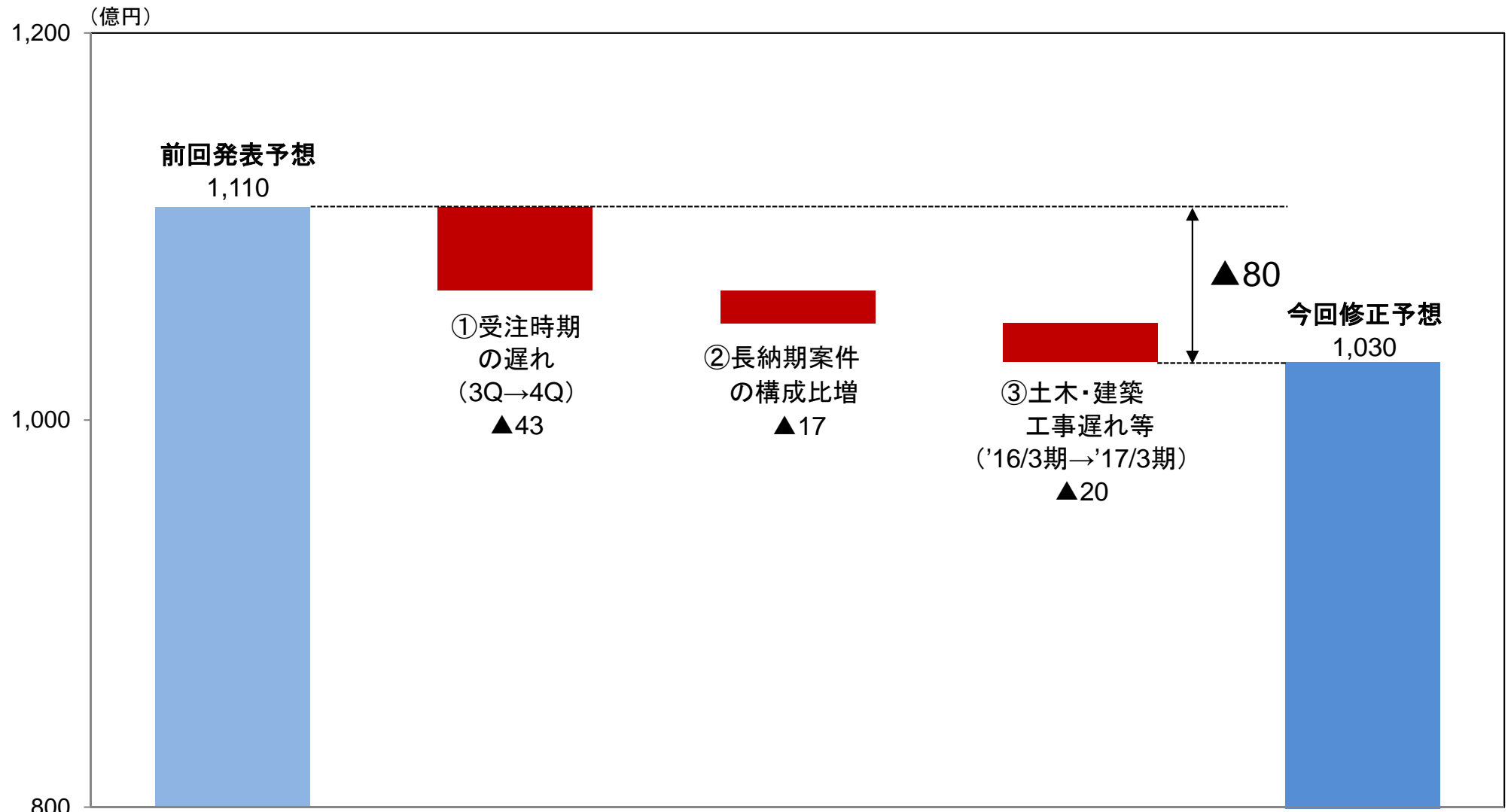
	受注高	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益*	配当
前回発表予想	1,180	1,110	84	81	52	年間58円
今回修正予想	1,160	1,030	52	52	27	年間58円
増減額	▲20	▲80	▲32	▲29	▲25	-
増減率	▲1.7%	▲7.2%	▲38.1%	▲35.8%	▲48.1%	-
前期実績	1,172	1,069	82	82	50	年間58円*

* 親会社株主に帰属する当期純利益

* 当社は、'14年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。上記は'15/3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たりの配当金を算出したものです。

2016年3月期 売上高予想の修正

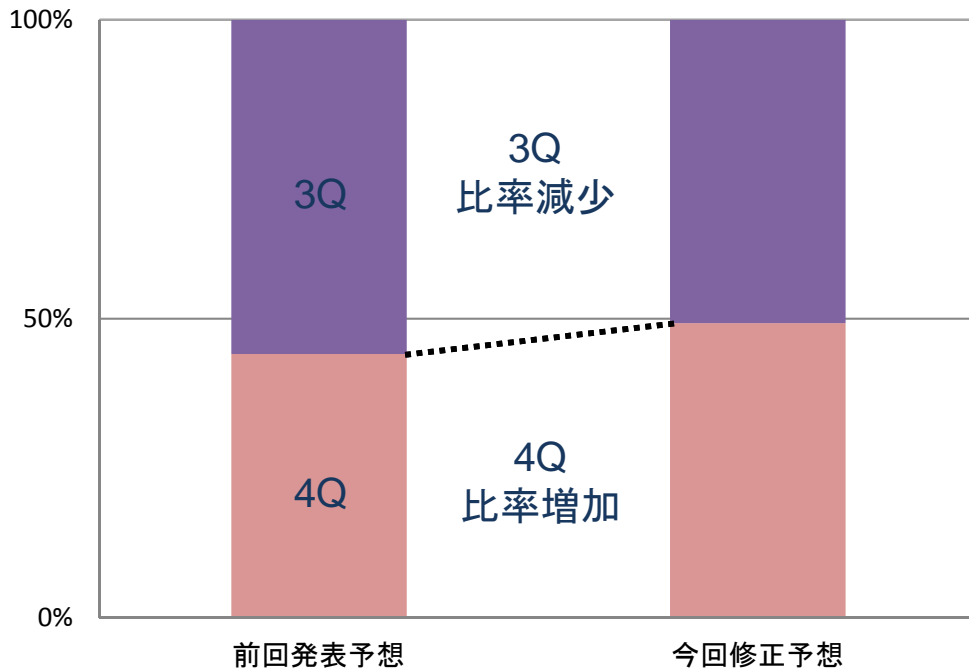
受注時期の遅れ、長納期案件の構成比増などにより、通期予想を修正



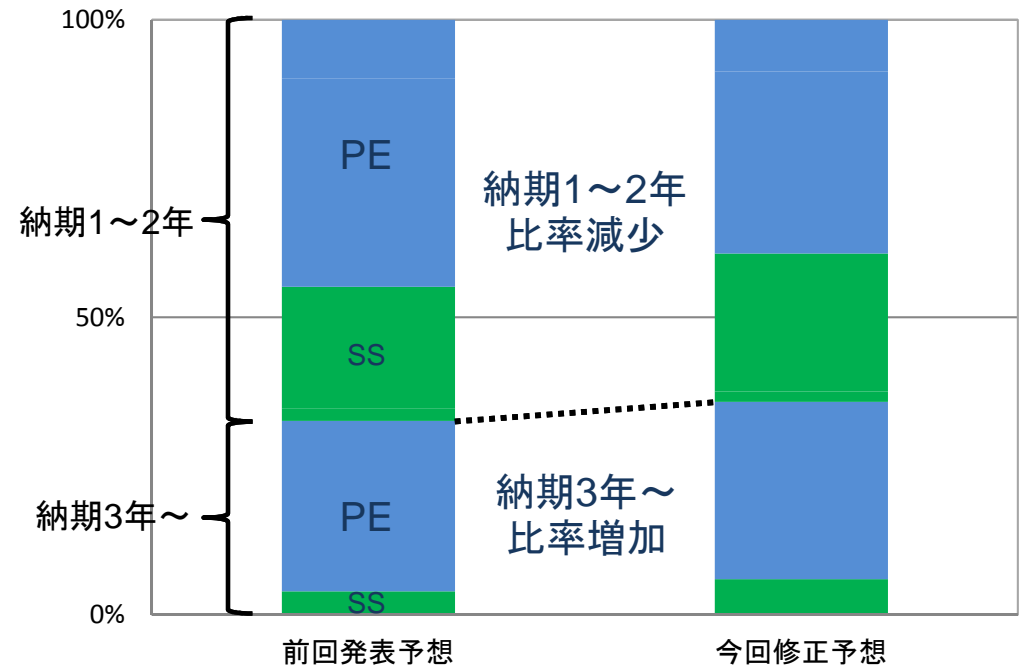
【売上高減少の主要因】

- ①受注時期の遅れ(▲43億円):3Q受注予定の一部案件が4Q受注にずれ込み(左グラフ)
- ②長納期案件の構成比増(▲17億円):PE受注高は納期1~2年が減少し、納期3年以上が増加(右グラフ)
- ③土木・建築工事遅れ等(▲20億円):4Q売上計上予定の一部が来期売上計上にずれ込み

下半期受注高の構成比

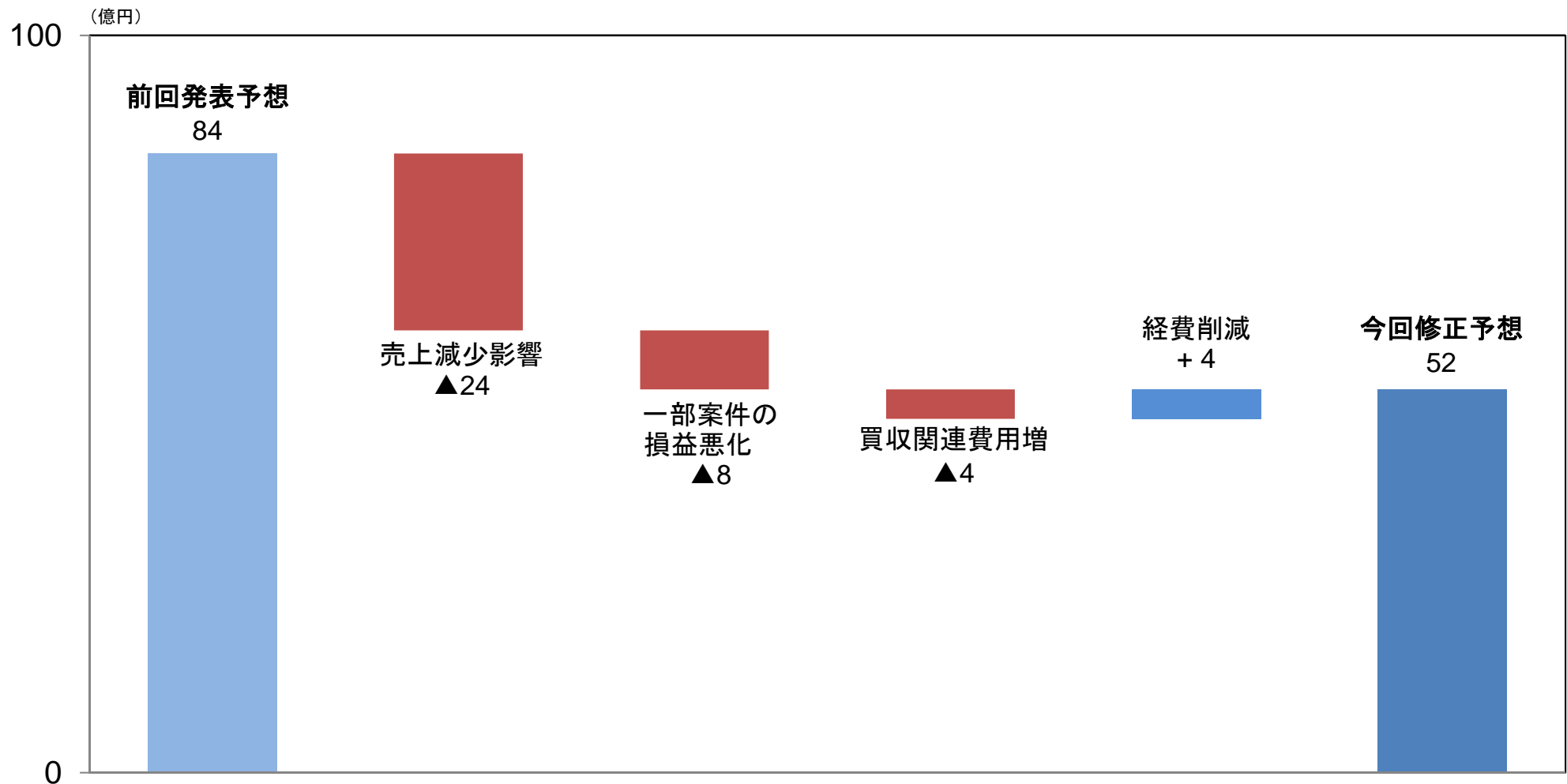


納期別通期受注高



2016年3月期 営業利益予想の修正

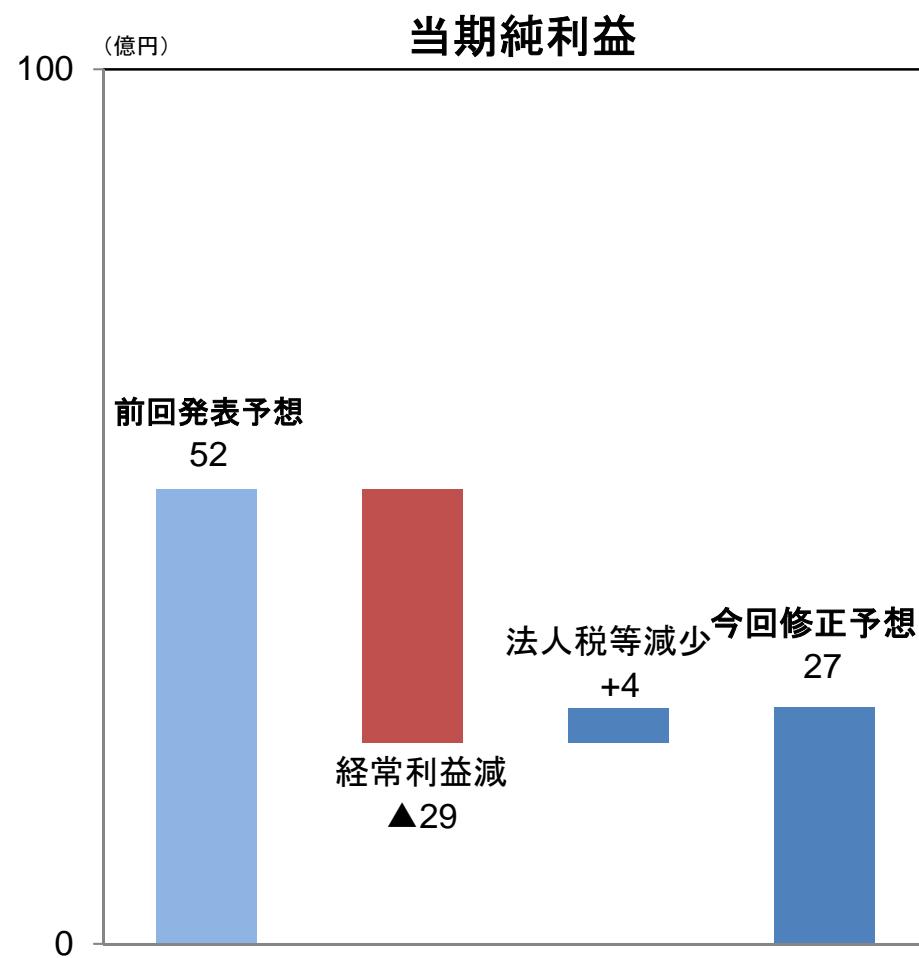
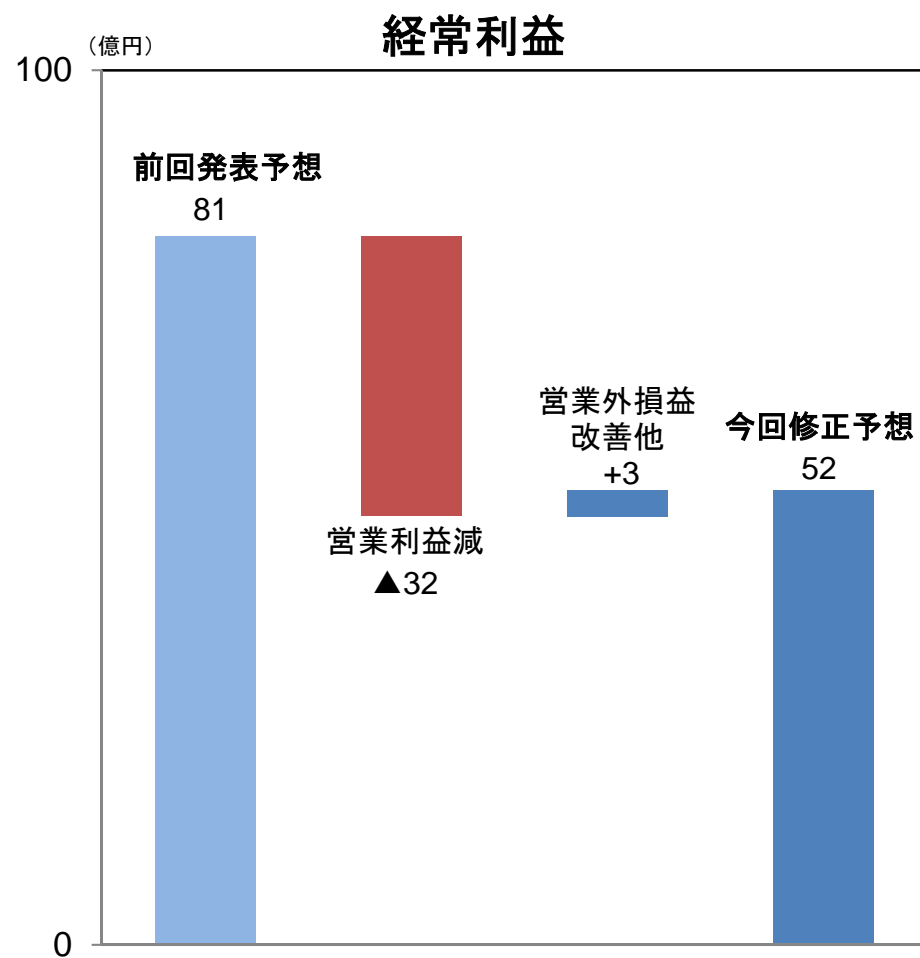
売上減少影響、一部案件の損益悪化を主要因に通期予想を修正



2016年3月期 経常利益・当期純利益予想の修正

*経常利益：営業利益の減少と営業外損益の改善を反映し、通期予想を修正

*当期純利益：経常利益の減少と法人税等の減少を反映し、通期予想を修正



Ⅲ 2016年3月期第3四半期決算概要

- 1 連結損益計算書
- 2 セグメント情報
- 3 連結貸借対照表
- 4 連結キャッシュ・フローの状況
- 5 通期の業績予想

連結損益計算書(16年3月期3Q累計の業績)

(単位:億円)

	'15/3期 3Q実績	'16/3期 3Q実績	増 減
売 上 高	418	374	▲43
営 業 利 益	-33	-62	▲30
(営 業 利 益 率)	-7.8%	-16.6%	
経 常 利 益	-31	-62	▲31
親会社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	-20	-44	▲24

* 10百万円単位を四捨五入

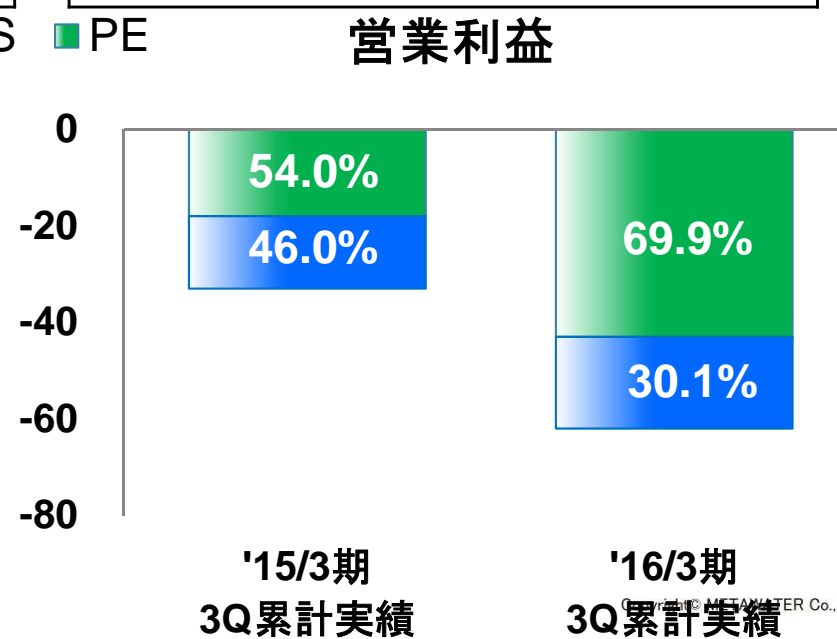
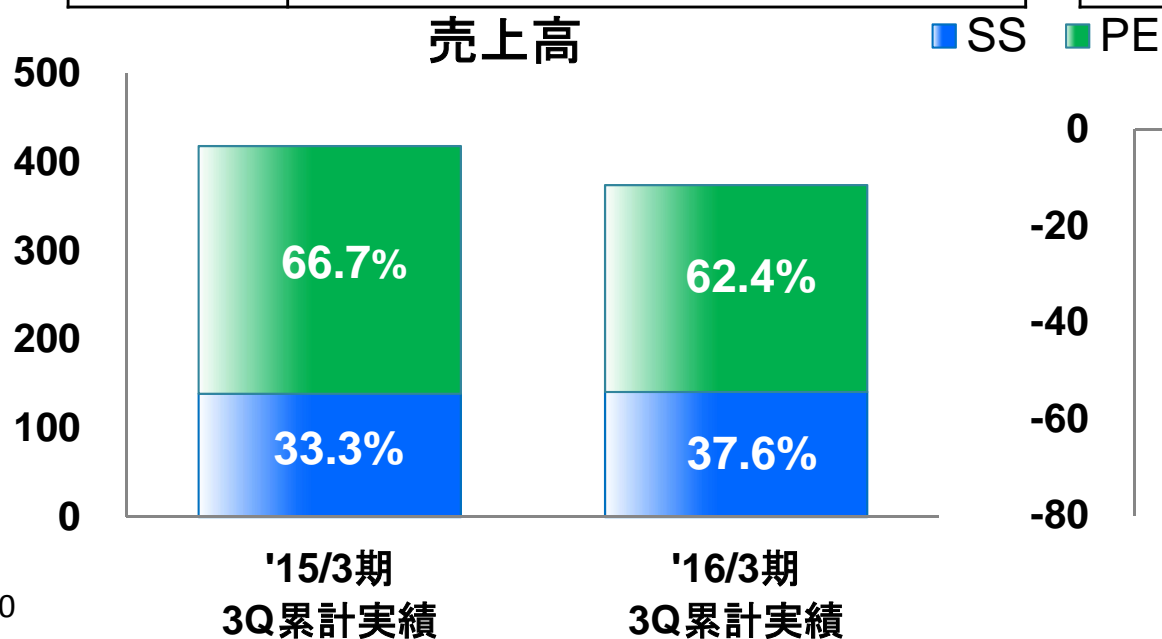
Copyright© METAWATER Co., Ltd. All Rights Reserved.

- PE: 長納期案件の受注増により、当期売上減少
- SS: 大型案件の採算悪化により、営業利益減少

(単位: 億円)

	売上高		
	'15/3期 3Q累計実績	'16/3期 3Q累計実績	増減
PE	279	233	▲46
SS	139	141	+2
合計	418	374	▲43

	営業利益		
	'15/3期 3Q累計実績	'16/3期 3Q累計実績	増減
PE	-18	-43	▲25
SS	-15	-19	▲4
合計	-33	-62	▲30



■売上債権の回収が一巡し、買入債務の支払い及び棚卸資産の購入に充当

(単位:億円)

	'15/3期 期末実績	'16/3期 3Q末実績	増 減
現金・預金	195	177	▲18
有価証券 ^{*1}	110	100	▲10
売上債権	665	344	▲321
棚卸資産	51	170	+119
その他	28	63	+35
流動資産計	1,049	854	▲195
有形固定資産	17	16	▲1
無形固定資産	21	18	▲3
その他	56	56	—
固定資産計	94	90	▲4
総資産計	1,143	944	▲199

	'15/3期 期末実績	'16/3期 3Q末実績	増 減
買入債務	343	134	▲209
前受金	51	169	+118
短期借入金 ^{*2}	(8) 8	(8) 8	—
その他	82	36	▲46
流動負債計	484	347	▲137
長期借入金 ^{*3}	(137) 137	(132) 132	▲5
その他	44	44	—
固定負債計	181	176	▲5
負債計	665	523	▲142
純資産計	478	421	▲57
負債・純資産合計	1,143	944	▲199

*1 : 有価証券は、譲渡性預金である

*2 *3 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

■ 税引前当期純利益の減少により、フリー・キャッシュ・フローは悪化

(単位: 億円)

	'15/3期 3Q累計実績	'16/3期 3Q累計実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高 ^{*1}	40	305	+265
営業キャッシュ・フロー	52	-3	▲55
投資キャッシュ・フロー	-9	-6	+3
フリー・キャッシュ・フロー	43	-9	▲52
財務キャッシュ・フロー	208	-19	▲227
現金・現金同等物の期末残高 ^{*1}	291	277	▲14

*1: 有価証券
(譲渡性預金)を含む

通期の業績予想

(単位:億円)

	'15/3期 通期実績	'16/3期 通期予想 (前回)	'16/3期 通期予想 (今回)	'15/3期 通期実績 増減	'16/3期 通期予想 (前回) 増減
売上高	1,069	1,110	1,030	▲39	▲80
営業利益	82	84	52	▲30	▲32
(営業利益率)	7.7%	7.6%	5.0%		
経常利益	82	81	52	▲30	▲29
親会社株主に帰属 する当期純利益	50	52	27	▲23	▲25
受注高	1,172	1,180	1,160	▲12	▲20

* 10百万円単位を四捨五入

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方に則り、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかることにより、当社グループに対する理解促進をはかり、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法等の諸法令および金融商品取引所の定める規則等により開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則等に則り、情報開示を行います。また、法令や規則等に該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様により有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則等により開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則等で定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則等に該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページ等を通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等を通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見等は、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等は差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標等のうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションがはかれるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 CSR推進室 広報IR部

Tel: 03-6853-7317 Fax: 03-6853-8709 E-mail: pr@metawater.co.jp